

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q17（老人保健施設における対応、リネン）

当院でのデイケア部門での入浴時に利用者の方々に使用する体を洗うタオルの消毒について

現状では、数本のタオルを用意し一度使用したタオルについて熱湯消毒後次亜塩素酸に浸漬しさらに粉石けんを使用し洗濯機で洗う。これを繰り返し30余名の利用者に実施している。

1. 体洗いのタオルがリネンに該当するという概念で消毒を実施しているが熱消毒80℃から90℃で10分以上でタオルを同日に使い回しをして感染対策上問題があるか否か。
2. 現在実施している方法を継続して行くべきか。
3. やはり感染対策上一人一タオルの使用とすべきか。

マンパワー・コストの問題、感染の危険性を鑑み又スタンダードプリコーションの概念に基づいた感染対策としてこの方法を実施していけばよろしいかご教授願いたいと思います。

A17

リネンは、感染性リネンと一般リネンに分類されます。感染性リネンとは、結核菌、HIV、HBV、HCV、疥癬、腸管感染症患者などの感染症患者のリネンおよび血液、体液、排泄物で汚染されているリネンをさします。一般リネンとは、血液、体液、排泄物による汚染が肉眼的に確認されないリネンのことです。

感染性リネンは、水溶性ランドリーバッグまたはビニール袋に入れ、「感染性」を明記して運搬します。感染性リネンの消毒には、熱水消毒と次亜塩素酸ナトリウム液に浸漬する方法が用いられます。熱水消毒は、80℃の熱水で10分以上の洗濯処理を行います。熱水洗濯機を使用すれば、安全かつ確実に消毒でき、洗濯後乾燥させます。便などで汚染されたりネンは、大きな汚染を水洗除去したのち、0.05～0.1%(500～1,000ppm)次亜塩素酸ナトリウム液に30分間浸漬処理し、洗濯し乾燥させます。

一般リネンは、感染性リネンと区別し、通常のリネン袋に入れ、洗剤で通常の洗濯を行います。使用済みのリネン類には病原性微生物が多数存在することが確認されていますが、通常の洗濯や衛生管理が行われていれば、実際の疾病伝播の危険性はほとんどないと考えられています。貴施設におけるデイケア利用者を使用したタオルの取り扱い、すべて感染性リネンとして対応しておられますが、血液、体液、排泄物による汚染が肉眼的に確認されない場合は、一般リネンとして洗濯処理が可能です。

タオルを同日に使い回し、また、一タオルで複数の利用者に使用しているとのことですが、一般的な清潔観念からも、一人一タオルとして十分乾燥させるためにも使い回しはさけるようにしたいものです。

<参考文献>

1. 廣瀬千也子：汚染リネンの取扱い．院内感染予防対策ハンドブック（厚生省保健医療局国立病院部政策医療課監修）、南江堂、2000、p147-150
2. 辻 明良：消毒及び滅菌の基礎と実際（1）．院内感染対策講習会Q & A（社団法人日本感染症学会監修）、社団法人日本感染症学会、2006、p21